

挿畫地學往來

亞細亞洲部

上

72  
9  
0.182

B 5

7 1 4



20

第百一十號

桂洲伊藤先生述

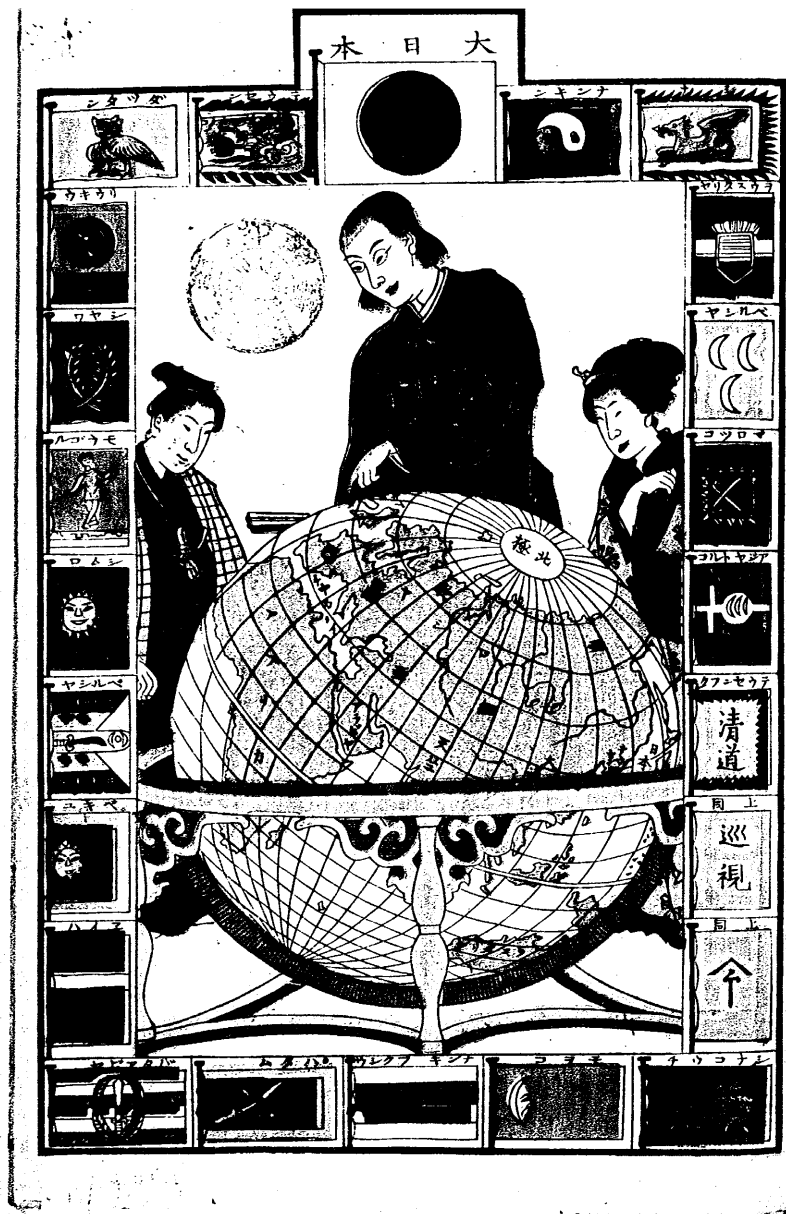
亞細亞洲之部

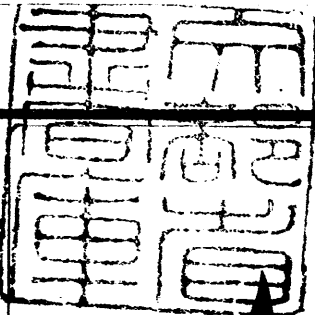
畫  
地學往來

明治五年  
壬申五月

書肆

文苑閣  
富山堂發兌





# 徳合



此書を童蒙として地球上の形勢を  
 あり且習字を便ならん為り若し  
 一書その一と世界万国のときし  
 べき捷徑以外も出さるものなし 少くも童  
 蒙軍哲にも産物を開つて  
 珍るたるに 三嶋三浦省後

無疆

桂洲先生題



地球形勢ノ説

地理之とて何れも是物ノ位也  
地球の形勢を論じたるものなり  
其地取を圓圓とて恰も橙を  
丸とて蓋し地を圓形なりと

想を以て所心を訊問せる是も易く  
多の馬扱ありと雖もこれ  
明瞭なるべきを載せしむ福寧と船  
を以て泉氏及び他の航海人を周南を  
轉廻せしむ直ぐ一方を以て周南

し再び其國船を以て所回と云ふ  
此も確證なり嘗て地球の六分  
を以て括し其四の五も界す大約  
五十分の一なりと云ふを得  
地球の周圍を以て約するありと云

圓とは圓体の外面を量轉せし  
なり其直径約一万里但し直径  
を中央より横切り而側の間  
を量るときは地球中より約十  
二倍なるものなり

陸地之説

大陸半島嶼地峽を総て陸  
地を蓋し大陸は縦横あり  
里なる廣大の地をいふ島嶼は  
四方環水の少地をいふ

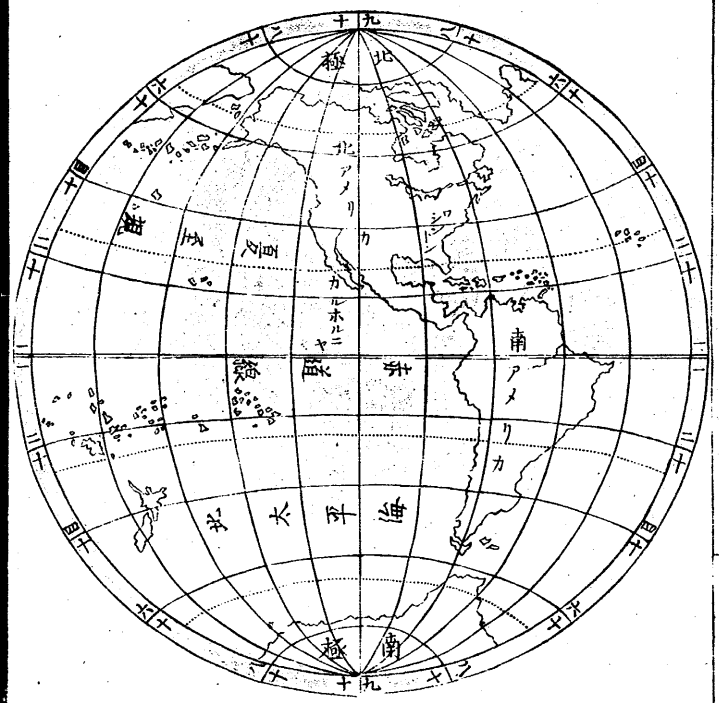
東半球



一、地之接一餘、水面  
 たる地、水面の地、島、  
 大陸、續、狭地を云、  
 又、岬頭、海、張出、  
 高、岩、碓、



西米球



水面之説

洋海、股海、灣、海峡、川、河を  
水面と稱す。浮を縦横と  
廣大母重の鹹水と陸地  
と高絶し海、陸地、接し

と鹹水の少部—海股海灣  
を陸地と廻接せ—海の一  
多海峡を而海を—續  
き或大洋と海とを連続す  
る海峡湖を陸上其四子哉

抱擁—る淡水或を其廣  
大なるその海とを—も其大  
河を陸上より其源—海と  
海—入る其他の河海を續く  
水體—河を少流或を淡水

下

水土分界之說

地球の陸土と水と六洲に分列  
一 歐羅巴亞細亞北亞利加  
二 亞美利加南亞美利加澳

將亞細亞海と云ひ又歐

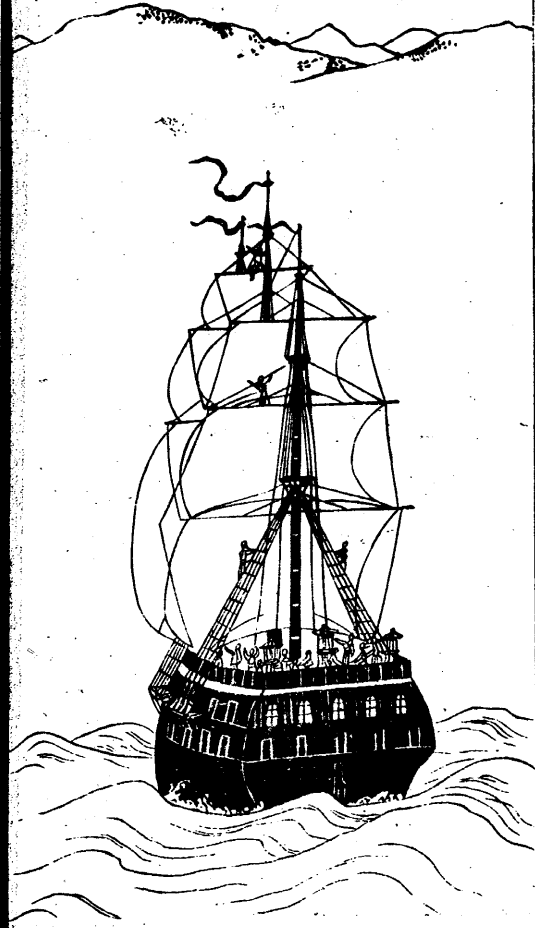
羅巴亞細亞北亞利加  
加南亞美利加澳大南亞大陸  
と云ふは内南亞美利加  
洲を新海と稱するは亞美利

かの西濱に近き印度島  
 を西暦九千二年間西暦元  
年大  
 多末國王の命を受け「ゼノース」  
 の水夫たりし「キリストフルコロンブス」始  
 る輸出せし近き古洲たる歐欧  
州

羅色西細魚亞北利かの  
 人氏ももき有るも知るる  
 等たり地球上の海ありて大  
 洋ありて大西洋大東  
 洋又大北洋南印度洋大南

洋の南の海

司馬遷 利智 五米 發見 不圖



赤道及地圖ノ説

赤道を地球の中央を貫く線  
として、地球の全形を  
正確に描き出す。地球の  
全形を正確に描き出す  
地球の全形を正確に描き出す

上の南極に著せしものとして  
地球を縦断し、赤道より北極  
に至るは、北極を北極、南極を  
南極、赤道を赤道、北極を  
北極と定むるなり

亞細亞大洲ノ説

亞細亞(Asia)は地球中の大洲  
にして、地を最大とし、  
殆ど人種を以て地の田とし、  
たゞ人種の祖にして、  
全音の地なり

天子の具雖文中に祀あり  
事情を此地より事多  
し天子の各小國を  
祀せんと欲す  
名祭あり左  
録す十一大國の部  
分を以て其

大概を同す是

日本帝國

支那帝國

滿州

朝鮮國

蒙古

西藏國

亞細亞洲中俄羅斯國

天竺國

附印度國東境

安南帝國

暹羅國

緬甸帝國

比耳西亞國

亞加業坦國

波路直坦國



大布加利亞國

土耳其國東境

亞拉比亞國

クルリ島

サハリーン島

瑠球島

ゼラルジャ國

ニユバル及ヒアンタマン諸島

マルヂフ及ビラツカン郡島

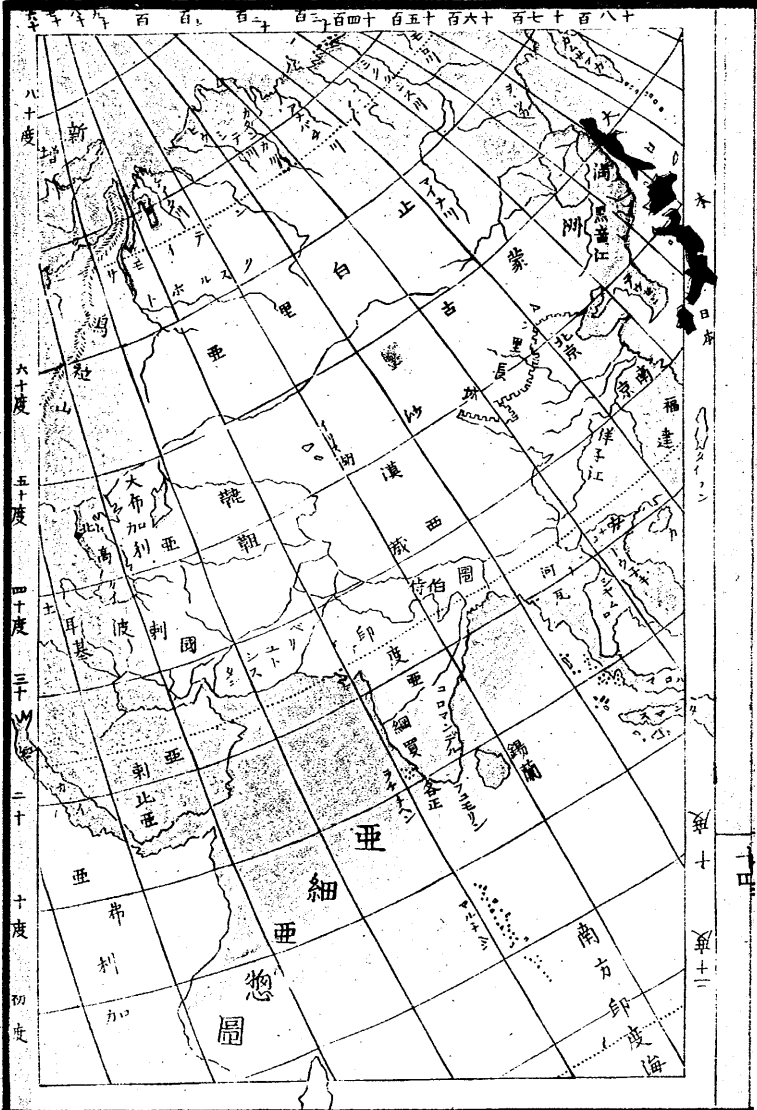
各々國の人口を総計す

約七

位一ふにちの数の数あり

西細五河を以て西美州加の西  
歐羅巴及西比利加の東より  
紳線は赤道より北二十一度起  
り七十度及び南緯線を以て

備西より南に起り以て東に四度  
より北に止る其長は六十度より  
六十度の四百里とて総計は七  
百五十英里の方里あり



地學往来

亞細亞大洲之說

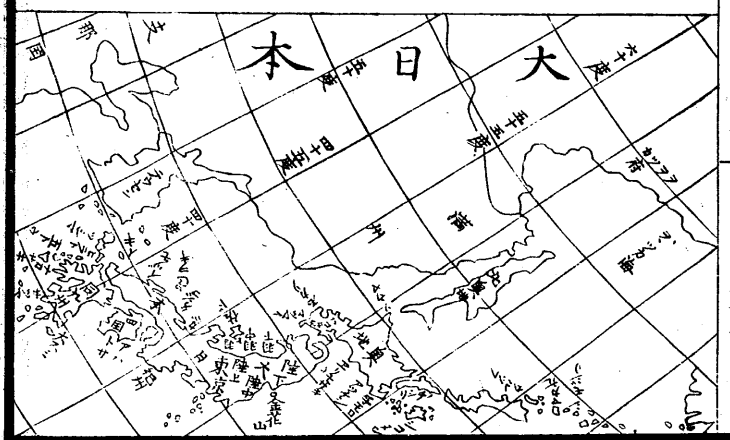
大日本帝國 ニッポンニス  
エンペイル

日本帝國も亞細亞の東海  
中にある親たる帝國たり



蓋し四国の大島を  
 包括して日本島と  
 稱す即ち蝦夷地を  
 北國より中國  
 まで一帯を  
 是なり人口の總計は

約三百万ある  
 東京より二十万  
 人の住民あり日本  
 の東部より大城  
 なる  
 東城東京より日本島の中  
 央より約二十万人の住民



日本國と通商せしむる港

九州と長崎 蓋し此地の

從來外國の貿易あり箱館

約一 首城東京大阪兵庫

物産米茶棉花烟草樟腦

樹膠及び石炭の穀物造船及

ひ糸飾り用たるもの絹糸織

木料紫製造物

磁器紙類漆

各種器骨角類



大日本米

人民の性質は極く冷冽にして諸  
業術の進むこと大に敏捷なるを  
八百五十四年安政元年 甲寅通商の  
物と外國と結びしより以來其習  
風及び服装に倣ひて微驗を顯

いせり

日本國を緯線赤道以北三十一  
度より起り四十度半に至り經  
度は東崎以來十六度より起り偏  
西一度二十分より至り止る蓋し

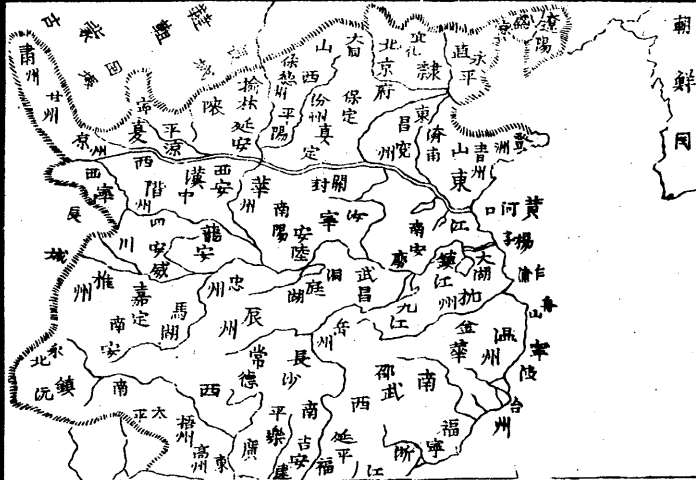
日本を総計十萬九千の里  
ハる四國ハ一萬七千二百餘里  
ハる一萬五千方里あるを南  
リル及ハ「サハリ」の南部を以テ  
二十萬里の方里あるとす

支那帝國

即チ漢土チヤイニス  
エンパイル

支那帝國ハ五細亞州の中央  
及ハ東方の全陸を總轄し廣  
大無比の國たりて固ニ三大部  
ありて北方を支配し陸而陸利

イニ



スタル  
タリー  
及蒙古國  
リヤ  
而

南方ハ西藏國  
ト東

北方ハ支那本國系

其人口の総計

約三億七千萬あり

蒙古國の北方及び東方の地脈

膏腴なるは南方及び西方

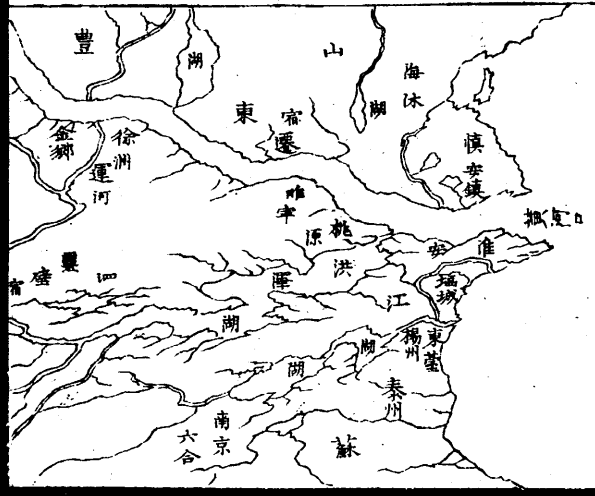
「ゴ」にと名付く大沙漠有り 僅の

浮浪の遊類の住居を以て

國を亞細亞海の中央にあり



まき原たより高山  
 其四面も繞立  
 五細五洲中南  
 大河の終も此中  
 より發源も百城

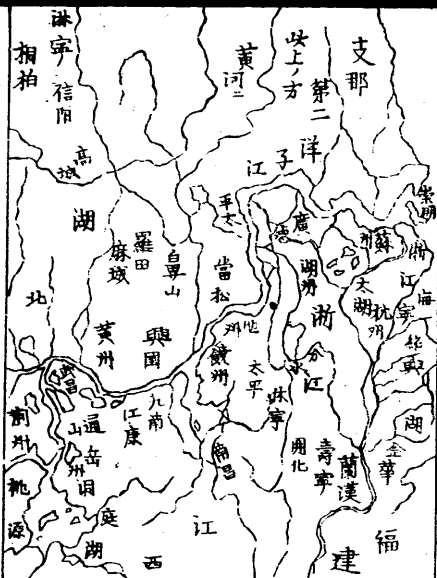


黄河 支那第一之大河之圖

を「ラスサ」といふ南部  
 人の禮教を受る大法王  
 稱もつ教門の主宰即ち大僧  
 の位をたり支那の他邦  
 も異なり所は其政府の古風

人民の様を風俗衣服の同  
 及ぶ物産の真貴たる  
 大河を黄河に揚子江  
 流し黄海へ入る重なる魏  
 造物を磁器たるを名を支那

支那 物とて魏造り地名を  
 取らたり及ぶ物産の真貴たる

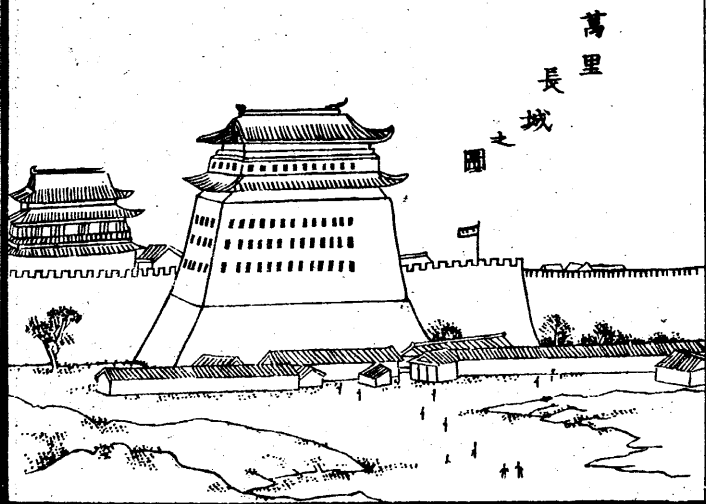


漆器象牙の彫  
 刻物わく茶  
 朱砂等々

輸出すこと多し一京城北京  
ハ部ノ地ニ百萬ノ人ノ住  
民あり大城あり上海寧波  
福州潮州及広東  
汕頭海口外國通商ノ港也

あり大運河及び万里長城ハ支  
那國中ニ大なる成工たる蓋  
一山東より寧波を通じ南部  
までノ地一綿亘一國中  
横たると凡數百里たる大ノ

運河の船路を便  
 りせんと製糖  
 人を起せし  
 地球中最大と  
 云ふ一英里長



城を造りて陸利國の侵界を防  
 禦し備んと極大の牆壁を建造  
 せし夫より其長を五千里とし  
 高を二十五「フート」幅は頂上より五  
 肩をたして行走す  
 為

階あり人民の性質を論じ最  
も敏捷にして物品を造製すこと  
と精巧なる取仕の顔色黄白  
て面歡高き蒙古の人種に属す  
貴家の婦女も手足を少形に

たもとと少毛の時より巻木綿  
或は挟く木を以て束縛し少毛の  
實より細少を極りしり

支那の國の緯線二十一度  
より起り四十七度に至る緯線

長崎以西九度より起り、二千年度  
少年より少くも総計万三千年に

方里あり

支那婦人

